

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成25年7月8日	評価結果市町村受理日	平成25年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600486-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは岐阜市と岐南町の境にあり、窓からは金華山が見えます。どなたでも気軽に立ち寄って頂けるよう、玄関は施錠せずいつもオープンにしてあり、ご家族の面会も多いです。ホームの庭には畑があり、季節の旬な野菜を食べられます。お楽しみ支援として買い物や花見だけでなく、いちご狩りやご家族様参加の百々祭りを毎年行っています。これからも心温かい安らぎと安心感が持てるホーム作りに取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、愛知県と岐阜県に5つの事業所を運営している。運営方針や、利用者への対応姿勢は、共有している。代表者・職員は、利用者中心の心豊かに、安らぎと、安心感をキーワードとして、質の高い生活を支援している。また、管理者は、職員全員に担当と責任を持たせ、仕事に対する前向きな姿勢と意欲を引き出し、介護職としての専門性を高めている。取り組みの成果は、働きやすい、働き甲斐のある職場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を』送れるように、温かいケアを目指して取り組んでいる。イベント等で更に地域との交流を図り家庭的な雰囲気を大事に出来るよう努力している。	『家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を』を理念に掲げ、日々職員間で確認している。家族や地域の人々と気楽に交流を図りながら、自宅と同じような、心安らぐ暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議やどぶ掃除、子供110番を今年も継続して取り組んでいる。近隣の散歩で近所の方との挨拶など、利用者が交流できる場を設けるよう努めている。	自治会の一員として、地域の行事や、どぶ掃除に参加し、近隣住民と親しく交流している。また、利用者のリハビリを兼ねて、地域の安全パトロールを自主的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の「認知症における環境支援」をテーマに勉強会を行う。見学者や退去された方の介護相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域とのつながりが深まっている。会議を通してホームでの活動報告だけではなく、自治会での活動報告も行っている。	運営推進会議では、活動報告の他、地域交流のあり方や、自治会役員の引継ぎで、関係性の継続、熱中症予防法等を実践、検討するなど、会議での結果をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の運営状況や事故報告、待機状況の報告以外に、介護認定における相談や岐阜市との協力体制などの相談等、協力関係を築いている。	毎月、岐南町と岐阜市へは、運営状況の報告を行っている。精神的に課題のある利用者の相談や、事故報告、介護認定等、個別のケースを相談し、適切な助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会を行い、スタッフルームにも掲示、職員全員が身体拘束を理解し取り組んでいる。ベッドからの転倒リスクが高い方はセンサーを設置して対応している。	利用者1名は、転倒の危険性が高いため、家族と話し合い、ベッドにセンサーを設置している。職員は、内外の研修で学び、拘束の弊害を十分に理解して、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろん、言葉による虐待を理解し、ホーム一丸となって温か言葉に取り組んでいる。ホームの勉強会でスタッフが定期的に学ぶ機会を設けている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を十分理解している職員とそうでない職員との格差がある。勉強会等でスタッフ全員が理解を深められるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明を行っている。入居後も質問や不安に対しては、できるだけ早急に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と気兼ねなく話せる関係作りに努めている。また、催し物に招待し、調理を一緒に行ったりご家族様同士の交流の場を設けている。	事業所の各行事へ、家族の出席が多いので、その機会に話し合いの場を設けている。誕生日祝いに、職員と家族と一緒に食事づくりを行ったり、家族間の交流を深めるなどして、気軽に意見や要望等を言いやすい関係づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では業務改善の時間を設け、職員の意見を出す機会を設け、日々の業務にも反映させることができている。	職員は、月例会議で、運営全般の意見を述べ合っている。自己の年次目標を立て、達成度と課題を検証している。また、言葉使いの注意点や年間の研修計画などを話し合い、運営の改善・向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活や体調に応じたシフト作りを行っている。また、定時の時間に仕事が終われるように職員同士が助け合い、声を掛けあうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の紹介を行い、希望者の申し込みを行っている。また、今年は全員に内部研修のテーマを割り当てて発表する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームの各務原、春日井の管理者と意見交換をしている。また、岐南町だけでなく、岐阜市も含め情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、話しやすい雰囲気作りに努め、思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている問題と思いや希望の把握に努めている。また、ホームでできることを明確にして説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こちらの都合ではなく、ご本人とご家族が今何が必要なのか見極め、相談の上、サービス開始時期を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時折職員側からの立場になってしまうこともありがちだが、相手の立場に立って考えるということを大事にしながら信頼関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、暮らしの日記を郵送し、利用者の方の生活や言葉や想いが伝わるようにしている。面会時に利用者の状態を報告し、どう支援しているかを説明し共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にみえた際には笑顔で出迎え、玄関は日中施錠しない等、面会に来やすい雰囲気・環境作りを行い、ご家族やご親戚などの馴染みの方の面会も多い。	地元の利用者が主体である。馴染みの場所は、近くの喫茶店、元勤めていた病院、以前住んでいた事業所前のアパート等である。それらの場へは、継続的に出かけ、馴染みの人と出合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定の個人に関わりが増えてしまいがちだったり利用者の意向で居室で一人過ごすことが多いこともあり、利用者同士の関わり合いが弱い部分もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際の交流は少ないが、サービス終了後も、気兼ねなく遊びに来たり相談に来たりしやすいような言葉かけ、関わり方を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で思いや意向を把握するよう努めている。動作や表情からもくみ取れるようにしているが、さらなる努力も必要。	個々の生活歴や能力を把握し、それぞれが役割を持って張りのある毎日が送れるように配慮している。意思表示が困難な人は、表情や動作から汲み取っている。得意なことを、できるだけ担ってもらい、その人らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいてこれまでの生活の把握に努め、職員間で情報の共有を行っている。また、新しい情報や気づきはノートに書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い体調管理の目安にしている。日常の家事活動の中でも利用者の有する力を把握し、できることを一緒にやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケアの振り返りを行い、意見を出しあっている。本人の現状に合った無理のない計画を作成している。	毎月、職員間でモニタリングを行い、サービス担当者会議で個別事例を見直し、介護計画に反映している。また、計画の見直しは、本人・家族や必要な関係者と話し合い、本人の現状にあった、暮らしやすいものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに介護記録やケアプランのファイルがあり記録している。また、職員からの気づきは連絡ノートに記入し、ケアするスタッフが情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のニーズを聞き対応出来るよう努めている。散髪、身体障害者の手続きや薬局への薬の引き取りや支払いなどできる限りの対応を行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活できるため、かかりつけ医がある方は継続して頂いたり、ご家族と一緒にご自宅へ帰られる機会を設けて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人と家族が自由に選択できるようにしている。昨年からは月に2回の往診をして下さる医師を提携し、細かな状態変化も密に連絡が取れている。	個々の利用者は入居前のかかりつけ医に受診している。協力医による月に2回の往診がある。その際、状態の変化に応じ、的確なアドバイスを受けるなど、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍、休日・緊急時も電話対応し介護職との情報交換や利用者の体調管理に努めている。看護師は主治医と連携を図り内服管理、状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームの情報提供を行い、スムーズに状態が把握して頂けるように努めている。退院時は必ず事前にお会いし、状態を確認の上で退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、常時医療行為が必要になった場合、他の機関に移ることを説明している。家族の意向も聞きながら、関係医療機関の協力の元、看取りを行うこともある。	常時医療行為が必要になった場合は、他の機関に移ってもらうように、家族に説明している。ただし、利用者、家族の意向と主治医と話し合いの上、自然(老衰)な看取りを行うこともできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を行ったが、ホーム内での研修を設け定期的に振り返る機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っており通報システムについてミーティングにて把握している。備蓄についても見直しを行っている。地域との協力体制を密にし、スタッフ全員が把握できるようにしていきたい。	年に2回、災害訓練をマニュアルに沿って実施している。災害時に備え、玄関に備蓄を確保している。運営推進会議で、地域との協力体制に関して、話し合いを行っている。	地域住民に、認知症と事業所の役割を理解してもらい、利用者の安全が確保できるよう、近隣との協力体制づくりが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しては、普段の声の掛け方に気を付けていきたい。言葉かけに対しては温か言葉遣いができている。	内部研修で取り上げ、排泄、入浴面でのプライバシーは、十分保持している。今年度の目標に「心ある言葉使いをしよう」と掲げ、日常の言葉かけや接遇についても丁寧に対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる働きかけを行い、無理強いのない生活支援を行うよう努めているが、職員側で行ってしまうこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われてスタッフペースになってしまうこともあるが、利用者のその時の状態や気分に応じて、利用者ペースの生活が過ごせる様支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣で利用者と一緒に服を決めたり、鏡をみながら利用者と一緒に整髪したりと、その人らしいおしゃれ・みだしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる力に応じてスタッフと一緒に簡単な調理活動や食器洗浄などを行っている。キッチンに立つのが難しい方もフロアで玉葱の皮むきなど、できることを利用者とスタッフ一緒にやれるようにしている。	事業所の畑があり、育てた野菜を献立に活かしている。調理できる利用者は、職員と共に楽しく調理に取り組んでいる。テーブルをコの字型に配置し、それぞれの顔が見え、一緒に食事が味わえるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせたペースト食、キザミ食、普通食を提供している。むせやすい方にはとろみを使用。水分も定時だけでなく、摂取量をみながら、こまめに摂って頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、実施できている。終わった方をチェックすることで、誘導忘れがないようにしていると同時に口臭や口腔内の状態把握にも努めている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用からパターンを把握し、トイレ排泄を取り戻すことが出来ている。また、日中や夜間の尿量の違いを把握し布パンツ、パット、Dパンツを併用し、排泄の失敗を減らす取り組みができています。	排泄パターンを個々に把握し、紙パンツや布パンツと使い分けしている。日中はほとんどの人が、トイレでの排泄である。自立の高い人は、トイレ内で、パッド交換や後片付けが、自身で出来るように、用品を分かりやすく収納ケースに並べている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には下剤を使用し、日中に排便があるように時間調整を行っているが、薬に頼りがちであるので日々の生活から予防に努めていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2・3回入浴を設定、本人の体調や気分にも柔軟に対応している。利用者が安心して入浴できるよう必要に応じて職員2人介助にて支援している。	週に2～3回、午後に入浴支援を行っている。体調や意向に合わせて柔軟に対応している。重度者の浴槽の出入りは、職員2人で安全に介助を行っている。利用者のリズムや調子に合わせ、ゆっくり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなくソファで休息されたりと、本人の希望や状態に応じた休息ができています。寝付けない方には温かい飲み物を提供するなど落ち着いて入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用についてはスタッフによって理解度にばらつきがある。服薬に関しては、薬のセット時にダブルチェックすることでセットミス防止、服薬介助時に日付、時間、名前を声に出し誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日に散歩へ行ったり、家事活動で役割を担ってもらい支援をしている。レク不足の為、毎月のレク担当を決め、利用者が楽しめるような支援に取り組むようにした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ケーキ外出や花見、イチゴ狩りなど、普段なかなか行けない所への外出支援が定期的に行えている。地域の人と協力しながらの外出は不足している。	事業所周辺を散歩し、野鳥の餌やりなどで外出している。また、イチゴ狩りや花見、ケーキの店へも出かけている。普段は行けない、琵琶湖への一泊旅行を実施している。	外出の具体的な支援内容が、十分理解されていない家族もある。日常の様子に加え、共通認識が得られるような工夫に期待したい。

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については本人の管理が難しく、家族と相談の上、事務所で預かったりこちらで立て替え後日請求書に載せることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりについての制限は設けていないが、利用者が電話や手紙のやりとりをするということ自体の理解ができずやりとりが少ないのが現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共同の憩いの場であるフロアの壁に季節に応じた飾り付けをするなどして季節感ある環境づくりに努めている。	玄関に立つと室内犬の鳴き声が聞こえてくる。居間のガラス越しに、季節の移ろいが見える。居間では、ソファでゆったりくつろぎ、テレビを見なが談笑している。廊下には、利用者が描いた油絵や手作り作品を飾り、生活感のある家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者同士の関係を考慮した配置にしており、利用者同士が顔を見合わせ交流できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物や愛着のあるものを持って来て頂いたり、家族の写真や手紙を飾ったりと居心地よい空間づくりをしている。ご本人の好きな物を飾ったりもしていきたい。	利用者個々に、使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいる。それらを、本人の好みに合わせて飾ったり、配置をしている。ドア上部の表札や暖簾は、それぞれ個性のある微笑ましい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かして本人主体の生活が安心安全に行えるよう支援しているが、できることまで職員が手をかしてしまうこともあるので本人の状態をしっかり把握したい。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成25年7月8日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年7月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を』送れるように、温かいケアを目指して取り組んでいる。今年も理念につながる目標を掲げ、一年を通して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議やどぶ掃除、子供110番を今年も継続して取り組んでいる。地域とのつながりが年々深まっていると感じる事が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の「認知症における環境支援」をテーマに勉強会を行う。見学者や退去された方の介護相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域とのつながりが深まっている。会議を通してホームでの活動報告だけでなく、自治会での活動報告も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の運営状況や事故報告、待機状況の報告以外に、介護認定における相談や岐阜市との協力体制などの相談等、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会を行い、スタッフルームにも掲示、職員全員が身体拘束を理解し取り組んでいる。ベッドからの転倒リスクが高い方はセンサーを設置して対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろん、言葉による虐待を理解し、ホーム一丸となって温か言葉に取り組んでいる。ホームの勉強会でスタッフが定期的に学ぶ開会を設けている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	2名の方が成年後見人を利用している。制度については一部の職員だけが理解できているのが、現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明を行っている。入居後も質問や不安に対しては、できるだけ早急に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と気兼ねなく話せる関係作りに努めている。また、催し物に招待し、調理を一緒に行ったりご家族様同士の交流の場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では業務改善の時間を設け、職員の意見を出してもらっている。今回の自己評価でも、「聞いてもらえている」という意見が多数あった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活や体調に応じたシフト作りを行っている。また、定時の時間に仕事が終われるように職員同士が助け合い、声を掛けあうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の紹介を行い、希望者の申し込みを行っている。また、今年は全員に内部研修のテーマを割り当てて発表する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームの各務原、春日井の管理者と意見交換をしている。また、岐南町だけでなく、岐阜市も含め情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、話しやすい雰囲気作りに努め、思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている問題と思いや希望の把握に努めている。また、ホームでできることを明確にして説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こちらの都合ではなく、ご本人とご家族との相談の上、サービス開始時期を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者さんに教えて頂くという気持ちを忘れず支援に取り組んでいる。実際、教えて頂く場面が多いと感じられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、暮らしの日記を郵送し、利用者の方の生活や言葉や想いが伝わるようにしている。利用者のご家族がよい関係でいられるように、職員が利用者の代弁を行ったり家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関は日中施錠せず、入りやすい環境作りを行っている。ご家族だけでなく、親せきの方や友人、同僚など面会が多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルをつながりがあるように配置し、食事以外にも談話の輪が広がっている。また、言語に問題がある方にも一緒に入って頂き、職員が代弁したりしてコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、遊びに来られたり、相談に来られたり、これまでと変わらない関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で思いや意向を把握している。また、職員間の情報交換を密にして共有している。困難な方は動作や表情から汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいてこれまでの生活の把握に努め、職員間で情報の共有を行っている。また、新しい情報や気づきはノートに書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い体調管理の目安にしている。夜勤帯からの申し送りの時間を設け、仕事始めに一人一人の状態が把握しやすいように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケアの振り返りを行っている。現状の維持に留まらず、歩行リハビリを開始したり、関節の硬縮予防のためのリハビリを取り入れたり、今の状態に応じた介護計画を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに介護記録やケアプランのファイルがあり記録している。また、職員からの気づきは連絡ノートに記入し、ケアするスタッフが情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物代行やご家族が付き添えない通院介助、散髪、身体障害者の手続きや薬局への薬の引き取りや支払いなどできる限りの対応を行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して生活できるため、かかりつけ医がある方は継続して頂いたり、ご家族と一緒にご自宅へ帰られる機会を設けて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人と家族が自由に選択できるようにしている。昨年からは月に2回の往診をして下さる医師を提携し、細かな状態変化も密に連絡が取れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍、休日も電話対応し介護職との情報交換や利用者の体調管理に努めている。看護師は主治医と連携を図り、身体障害者の手続きや内服管理、状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームの情報提供を行い、スムーズに状態が把握して頂けるように努めている。退院時は必ず事前にお会いし、状態を確認の上で退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、常時医療行為が必要になった場合、他の機関に移ることを説明している。利用者、家族、関係医療機関の協力の元、看取りを行うこともある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を行ったが、ホーム内での研修を設け定期的に振り返る機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。通報については、ミーティングでの議題にあげ、スタッフ全員が対応できるようにした。定期的にホームの備蓄についても見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年も温か言葉に取り組んでいる。今年度の目標には「心ある言葉で、いろんな利用者さんを巻き込めるコミュニケーションを図ろう」を掲げて取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起きたい、寝たい、したい、したくないなど本人の思いを尊重したり、自己決定できる働きかけを行い、無理強いのない生活支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、思いを考えながら、できる限りのペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こまめに散髪を行い、清潔感を持って生活をして頂くようにしている。また、本人らしさを大切にしながらも季節に応じた服や汚れによる更衣も気にかけて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者が参加できるようにしている。できる力に応じて味付けを担当して頂くこともある。職員も同じテーブルで同じものを食べることで食べ物のお話を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせたペースト食、キザミ食、普通食を提供している。むせやすい方にはとろみを使用。水分も定時だけでなく、摂取量をみながら、こまめに摂って頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。終わった方をチェックすることで、誘導忘れがないようにしている。歯磨きの苦手な方はマウスウォッシュを使って口腔ケアを工夫している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンをつかむことでトイレ排泄を取り戻すことが出来ている。また、パット類の見直しを行い、日中だけ布パンツを使用したり、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1か月の排便習慣がわかるように記録している。便秘の方で下剤や座薬を使用される方は、できるだけ日中に排便ができるように、時間調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2・3回入浴を設定、本人の体調や気分にも柔軟に対応している。座位保持が不安定な方には安全面を重視し、二人介助で行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態やその日の体調に応じて、一人一人に合わせた休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の取り扱いについて見直しをし、ダブルチェックの徹底を行っている。また、内服する際にも日付、名前、用法を口に出して確認、確実に口の中に入ることを見届けることを徹底した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとへの支援の振り返りを行い、月ごとにスタッフの担当を決め、イベント、レクリエーションに取り組めるようにした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩以外にも、ケーキ外出や春には花見、イチゴ狩りへのお出かけが実現。買い物や外食支援も定期的に行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については本人の希望と管理できる力に応じて家族と相談の上行っている。事務所で預かりも行っているが、こちらで立て替えて月末の請求書につけることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけて頂いている。家族の方にも電話をかけることのできることを理解している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが過ごしやすいようにテーブルやテレビの配置をしている。テーブルには庭で咲いている花が飾られており、季節感ある環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者同士の関係を考慮した配置にしている。利用者同士の会話も増えてきて、笑い声が多く聞かれるようになった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしている見える物や馴染の物の持ち込みをお願いしている。壁には家族との写真を掲示し、安らぎの空間を提供している。また、安全面にも配慮した居室作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今の現状をしっかりと把握し、リハビリ歩行を勧めたり、硬縮リハビリを行っている。また、できる力を把握することで抑制のない生活の実現を目指している。		